

月刊 やちまなこ

2015.7.15 発行

No. 212

7 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



湿原散歩

湿原を彩る花に誘われるように、観光客の数も増えてきた。道沿いや林内では枝先に多数の白い花をつけたハシドイが見頃となり、近寄ると独特な香りが初夏のフィールドに広がる。釧路市の木にもなっていて、過去に香水として商品化された話題があった。近縁種にムラサキハシドイがあるが、ライラックやリラの名前で広く知られている。

コッタロ川と湿原のほとりから

181 7月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

“下闇のそこのみ白く大手マリ” 三年ぶり満開の紫陽花によく似た花の固まりが、昼尚暗き夏木立ちの中にぽっかりと明るい雰囲気を含めて初夏の風情をかもし出しております。一方で陽当たりの大変良い庭に自生し年々増殖し続けているヒオウギアヤメやエゾ車百合、スカシ百合等は、夜な夜な出て来るエゾ鹿軍団にすっかり食み尽くされてしまいガックリコン！ “百合、アヤメ鹿のお腹で繚乱す” 不思議にも好みがあるらしく、「登り藤」には目もくれず、お陰様で“七色のルピナス咲ける花園に丸花蜂の羽音高鳴る”状態が続いているのに救われる毎日です。

ところで、昨年9月から居ついているエゾシマリス♂♀は、我等の期待をあっさり裏切ってベビーシマリスなど「人の夢」とばかり儚い結果となりました。相変わらずの自由闊達な行動が見る人の目を楽しませてくれており、その強靱な後足でのジャンプは見応えがあり、面白いので、一連の動作をリアルタイムにストップモーションをつなぎ合わせてみましたので御覧下さい。又、もう一つ面白いのが、丹頂の幼鳥等（60日目）の尾羽の比較で、ポヤポヤうぶ毛の茶色の中からチラリと白色羽が生え始めているのが見えましよう？後から孵化した方はもう少しで生えてくるでしょうし、初列風切羽はずい分伸びて羽ばたき乍ら池の中で水浴していると“バッサバッサ・・・”の音。因みに7月9日の朝は+5℃の寒さで、日中+19℃止まりでした。暖冬の後の冷夏に要注意かもしれませんね。



さて、その丹頂が自然の中で生き餌を自由に捕れるようにとの思いから、魚の養殖を始めて4年目。発眼卵を仕入れ地下200Mから自噴する湧水で育てることに成功し、年々その数を増やして今季は“二万粒受精卵より育ちたる稚魚泳ぎ出す初夏のいけすに” こうなるともう、親子4羽で、池の周囲を歩きまわり乍ら、一向に離れようとせず、時折、幼鳥の目の前で3～4尾の稚魚をサッ！とツルハシで捕まえては子ヅルに与えているのを見ると嬉しくなってしまうですね。



湿原の住人たち その172

ジョウカイボン



ジョウカイボンはカミキリムシの仲間に姿が似ている甲虫です。林や湿地などの葉っぱの上にいるのを見かけます。体長 15 ミリ程、細身の体、やわらかい上翅、ペしゅんこの顔からは、他の昆虫を捕食するハンターには見えませんが、葉にとまって待ち伏せしているのかもしれませんがね。写真は、茅沼に出来た釧路川自然観察路の木道脇のコウライテンナンショウの葉上にいた個体です。話はそれますが、この木道は、釧路川旧川復元区間で復元後の河川環境調査を行うために釧路開発建設部によって整備された片道 540mの木道で、一般の方も自由に利用できます。

土器作りを体験しました。

12日、自然ふれあい行事「土器作り講座」を開催しました。講師である標茶町郷土館学芸員坪岡始さんから縄文時代の生活や環境のことや、塘路地区から出土した土器や矢じり、石斧などを実際に参加者に触れてもらい、説明してもらいました。

土器作りでは底の部分を最初に作り、周囲をひも状にした粘土を積み上げ（輪積み）高さを増す際に粘土の中に空気が入ると、焼いたときに膨張破裂することや肉厚が薄いと重みで変形するので注意することを教わりました。午後から土器の表面に文様をつける作業となり、縄を巻いた棒を転がすと独特な縄文が現れ、参加者も驚いていました。他に木の枝や貝殻などを使い、各自平成版！？縄文土器を仕上げ、しばらく自然乾燥させた後、来月に野焼きをして完成させます。



なべじゅんの塘路うろうろ日記 Vol.2「小さな来館者さん」

6月にしては、肌寒い日が続いた朝。同僚の職員さんから、郷土館裏の窓越しのすぐ近くにシマリスがいて教えてもらいました。しばらく、私たちは窓越しにシマリスを見ていたのですが、リスはさっぱり動きません。そこで、リスに何があったのか確かめるため、思い切って外に出て、どこまで近づけるか確かめることにしました。←今思うと、シマリスに、いじわるしてしまった感がありますが（汗）

3メートルぐらいリスに近づいても、こちらを見るだけで、元いた場所から動きません。2メートル、1メートルと近づいた時、リスが建物の穴の中に駆け込みました。でもこちらが穴から離れると、またすぐに穴から出てきます。そのうちにお客さまが来館されたので、私が館内に戻った後もしばらくの間、同じ場所に居てくれました。だいたい50分近く郷土館裏に留まっていたと思います。寒い日でしたが、シマリスの愛らしさのおかげで、心がほっこりした一日でした。

渡邊 淳一（標茶町郷土館学芸員）



各行事とも事前の申込が必要です

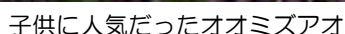
*平成 26 年度自然ふれあい行事参加者と講師の作った「マヒワ」を展示します。入場無料。

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ 申し込み問い合わせは 塘路湖エコミュージアムセンターまで TEL 015-487-3003

[illegible]

【その他】(6/22)キタキツネ (6/29)ホンサナエ、コサナエ、シオカラトンボ、ヨシカレハ・マイマイガ・テントウムシの幼虫、ヒメウラナミジャノメ、クロヒカゲ、エゾスジグロシロチョウ、コヒオドシ、フタスジチョウ、ギンボシヒョウモン、エゾハルゼミ (7/1)ジョウカイボン (7/7)道道 1060 号線沿い(スガワラ付近)ヒグマ出没情報 (7/10)エゾシカ、キタキツネ (7/11)エゾシマリス (7/12)標茶町の最高気温+33.8℃を記録

◆日出・日入時間 7/15(3:56, 19:00). 7/31(4:11, 18:46). 8/14(4:26, 18:27)



休館日:毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料